

of leadership.

(Adapted from Keith Grint, *Leadership: A Very Short Introduction*, 2010)

<注> empirical* : 経験的な
heuristic** : 発見的な

設問 1 段落④の内容に合致する文を以下の(ア)~(エ)から1つ選び、解答欄に記号で書きなさい。

- (ア) As he read, his understanding grew.
- (イ) As he read Socrates' work, he learned about leadership.
- (ウ) In the beginning, he knew about leadership from experience.
- (エ) In the end, he had many followers.

設問 2 下線部(1)の 'essentially contested concept' とは何か、本文に即して日本語で説明しなさい。

設問 3 下線部(2)を和訳しなさい。

設問 4 ③~⑤の各段落の主題として最も適切なものを以下の(ア)~(エ)から選び、それぞれ解答欄に記号で書きなさい。

- (ア) An idea worth arguing about
- (イ) Creating a system
- (ウ) Four definitions, more confusion
- (エ) Limitations of the model

4 次の文章を読み、設問に英語で答えなさい。

ノートを書いておくことで、失敗を知見として役立てられるようになります。そして個人の生活以外でも、さまざまな「失敗」が前進のために活かされている場面があります。たとえば学術論文などは好例でしょう。

何かの実験でこういう結果が出たという発表があった後、その実験の追試が行われて「この方法でうまくいかなかった」と報告されることがあります。失敗の一つです。そうした報告がいくつも集まるならば、最初の発表がそもそも間違っていたと判断されます。失敗報告が積み重なって、一つの失敗が明らかになったわけです。しかし、それで科学が後退したわけでもなければ、前進していないわけでもありません。「その実験では望む結果が得られない」という新しい知見が得られたのです。将来研究をする科学者は、選択肢を一つ外して考えることができます。これは前進と言えるでしょう。

そこまで大きな話を持ち出さなくても、「うまくいかないことがわかる」は一つの知見だと言えます。そこから改善策がわかることもありますし、まったく違うアプローチを考えるきっかけになることもあります。何も考えずに、ただ同じことを繰り返して、同じ失敗を重ねているだけよりもはるかに生産的でしょう。記録を残していれば、そうした同一失敗のループを抜け出す手がかりが得られるのです。

日本社会では、どうにも失敗への嫌悪感が強いところがあります。それは、均質的なムラ社会であったり、あるいは生き方が一つのルートしかなかった時代の名残なのかもしれません。しかし、失敗することは、それほど悪いことではありません。失敗を経験してわかることもたくさんあります。記録をつけることは、失敗や挫折の捉え方を反転させ、それを知見として活かす道りをつなげてくれるのです。

(倉下忠憲『すべてはノートからはじまる』2021年)

設問 Explain what the author means by the underlined sentence in about 70 words.

4

The author said that taking a record will help you to turn your failure into knowledge.

Because it enables us to reduce the same mistake, find out the solution we have to think about and have an opportunity to consider different approach. Keeping a record will give us a chance to escape the same failure cycle and change our thought about.